

催し物のご案内 (10月～12月)

観察会・講座等

1. 研究テクニック講座「地形観察会」
[小田原市一夜城]
日時：10月10日(祝) 10:00～15:00
対象：一般50名(抽選)
募集：9月2日(火)～9月16日(火)
2. 野外観察「化石ウォッチング」[大磯海岸]
日時：10月25日(土) 10:00～15:00
対象：小中学生とその保護者50名(抽選)
募集：9月16日(火)～10月7日(火)
3. 室内実習「くだものウォッチング」[博物館]
日時：11月8日(土) 14:00～16:00
対象：小中学生とその保護者50名(抽選)
募集：9月30日(火)～10月21日(火)
4. 研究テクニック講座「図鑑を作ろう：魚編」[博物館]
日時：11月9日(土)・16日(日) 9:30～16:00
対象：一般10名(抽選)
募集：9月30日(火)～10月21日(火)
5. かながわオープンカレッジ「植物分類講座」
[博物館] (5,000円の参加費が必要です。)
日時：11月15日(土)・29日(土)・12月6日(土)・1月17日(土)・24日(土)
対象：一般40名(抽選)
募集：10月7日(火)～10月28日(火)
6. 野外観察「鉱物ウォッチング」[静岡県熱海市上多賀海岸]
日時：12月13日(土) 10:00～15:00
対象：小中学生とその保護者50名(抽選)
募集：11月4日(火)～11月25日(火)

7. 博物館ボランティア体験講座 [博物館]
期日：12月4日(木)・5日(金)・9日(火)・10日(水)・12日(金)
時刻：10:00～15:30
対象：一般 分野別に5～10名(抽選)
募集分野：地球環境(岩石学・海洋科学)、動物(昆虫・魚)、古生物、ミュージアム・ライブラリー、植物(種子植物・キノコ・コケ)
募集：10月28日(火)～11月18日(火)

応募方法：往復はがきに参加行事名、参加代表者の住所、氏名、電話番号(連絡先)、参加する人全員の氏名と年齢(学年)を明記して、お申し込みください。博物館ボランティア体験講座にお申し込みの方は希望の分野と応募の動機もお書きください。応募多数の場合は抽選となります。

「身近な自然発見講座」

毎月第3水曜日に、一般の方を対象に、博物館周辺での自然観察や館内での実習・実験をする身近な講座を開催しております。参加費は無料ですが、バス代・電車賃が必要なことがあります。事前の申込みはおりません。当日、歩きやすい服装で、博物館正面玄関にお集まりください。雨天の時は中止します。持ち物：筆記用具、ルーペ、昼食、水筒、雨具、双眼鏡など

- | | |
|-----------|-------------|
| 10月15日(水) | 10:00～15:00 |
| 11月19日(水) | 10:00～15:00 |
| 12月17日(水) | 10:00～15:00 |

特別展のご案内

「新しい地球像をもとめて —地球再発見—」

平成9年11月3日(月)まで開催中
＜開催中、11月3日を除く毎週月曜日と10月16日(木)は休館＞

地球を探る最新の方法、たくさんの珍しい隕石、岩石、鉱物などの実物資料を展示し、地球の新しい素顔を紹介します。視点が変わると「今までにみたことのない地球」を再発見できます。この特別展は博物館の総合研究「地球熱史」の成果に基づいたものです。

観覧料 20歳以上：200円
20歳未満・学生：100円
高校生以下・65歳以上：無料

連続普及講演会「地球再発見」

7月20日～11月3日まで開催中の特別展「地球再発見」の内容に関連する最新の研究をわかりやすく紹介します。往復はがきに希望の回と参加代表者の住所、氏名、電話番号(連絡先)、参加する人全員の氏名と年齢(学年)を明記して、お申し込みください。定員は各回70名ですが、応募多数の場合は抽選となります。

- 第1回 10月5日(日)
 - ・地球の調べ方
 - ・生命の誕生と進化
 募集：8月26日(火)～9月16日(火)
- 第2回 10月10日(祝)
 - ・大気と海洋の誕生と進化
 - ・地球の誕生
 募集：9月2日(火)～23日(火)
- 第3回 10月12日(日)
 - ・地球深部を作る
 - ・宇宙からの使者(隕石)
 募集：9月2日(火)～23日(火)
- 第4回 10月19日(日)
 - ・大陸の誕生と進化
 - ・地球の全史
 募集：9月9日(火)～30日(火)
- 第5回 10月26日(日)
 - ・地球内部を探る
 - ・宇宙の仕組み
 募集：9月16日(火)～10月7日(火)

特別展図録発売中

たくさんの隕石や岩石、鉱物の標本写真や、地球科学研究に関する最新の方法の紹介などをふんだんに盛り込んだオールカラー版特別展図録を発売しています。お求めはミュージアムショップで。価格は1,800円です。特別展「新しい地球像をもとめて—地球再発見」観覧の方、必携の書です。

ライブラリー通信 人類はまた、ヘール・ボップに逢えるのか

今年は天文学の当たり年のようです。この半年ほどの間でも、春先のヘール・ボップ彗星に始まり、日食があり、火星探査機の到達成功がありました。このようなトピックス的なことがあると、出版界にも少なからず、変化が出てきます。つまり、そのテーマに関連した図書が多く出版されるということです。テーマが珍しいことであればあるほど、その本は貴重な文献になります。

例えば、今年ヘール・ボップ彗星についての本が、5冊ほど出版されましたが、派生的に、彗星関連の本も同じくらい出ているのです。半年の間に、彗星の本が10冊も出る年は他にはないでしょう。いくつかを紹介しましょう。

『これがヘール・ボップ彗星だ!!』(誠文堂新光社)、『ヘール・ボップ彗星がやってくる』()、『ヘール・ボップ彗星完全ガイド』(地人書館)などがあります。なお、彗星そのものについては、『理科年表』(丸善)や『天文年鑑』(誠文堂新光社)でも調べることができます。公転周期や近日点距離、最初の出現(もちろん記録に残っている最初という意味ですが)、出現回数、さらには近く訪れる彗星のリストまで掲載されていて便利です。有名なハレー彗星は公転周期が76年で、すでに30回も太陽の周りを回っていて、次に訪れるのは2061年だそうです。

そういえば、ヘール・ボップ彗星が次にやって来るのは、2379年後という話です。24世紀先も、人類が今のように繁栄を誇っていられるのでしょうか。我々がヘール・ボップ彗星を見た最後の人類にならないように祈りつつ、今夜も、夏の星空を眺めてみることにしましょう。

(司書・土屋定夫)